

生物化学検査学特論 I (Advance of Science Laboratory for Biological Chemistry I)

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
高崎昭彦、杉浦 諭	1年次前期	選択	2	30	講義	あり	卷末掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対するフィードバック方法	生物化学検査学特論 I では、特に循環器系疾患と呼吸器系疾患に焦点を絞り、関連する生物化学的検査に技術理論の基礎を修得させ、データ解析技術も身につける。新しい解析技術に向けた発展的な思考を養う。また、感染症の診断方法に関して、原因となるウイルスや細菌の基礎を理解し、検査法の歴史と現状を踏まえた上で、様々な検査方法について学修する。 課題に対するフィードバック方法/レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。							
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「専門職業人として医療に対する幅広い知識と技能を駆使し、高度な臨床検査を実践できる。」及び③「健康に対する社会的ニーズを認識するとともに、グローバルな視野を持ち、科学的根拠に基づき、自ら考え、判断し、課題解決に向けて対応することができる。」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	1. 生物化学的検査法の基礎的理論と技術を説明できる。 2. 海外の文献などを基に発展的な理論、技術を学び説明できる。 3. 生物科学的データを基に病態を解析でき、他分野の検査データと関連づけることができる。							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1回～第15回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく/シラバスの関連部分をあらかじめ学修しておくこと (各30分) 第1回～第15回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める/担当教員が配布する資料でよく復習をすること。(各30分) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間 (2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回) (1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回) (1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回) を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画	第1回	循環器系疾患の生物化学的検査の現状①					高崎昭彦	
	第2回	循環器系疾患の生物化学的検査の現状②					高崎昭彦	
	第3回	循環器系疾患と生活習慣病との関連					高崎昭彦	
	第4回	循環器系疾患と内分泌機能との関連					高崎昭彦	
	第5回	循環器系疾患に関するR-CPC①					高崎昭彦	
	第6回	循環器系疾患に関するR-CPC②					高崎昭彦	
	第7回	循環器系疾患に関するR-CPC③					高崎昭彦	
	第8回	循環器系疾患に関するバイオマーカーについて					高崎昭彦	
	第9回	呼吸器感染症の原因菌・ウイルスの基礎					杉浦 諭	
	第10回	呼吸器感染症検査の歴史					杉浦 諭	
	第11回	呼吸器感染症の抗原・抗体検査①					杉浦 諭	
	第12回	呼吸器感染症の抗原・抗体検査②					杉浦 諭	
	第13回	遺伝子検査法による呼吸器感染症の診断①					杉浦 諭	
	第14回	遺伝子検査法による呼吸器感染症の診断②					杉浦 諭	
	第15回	呼吸器感染症検査法の展望					杉浦 諭	
評価方法 評価基準	レポートで評価する (100%)							
教科書	特に定めない			参考書等		担当教員が毎回資料を配布する		
学生へのメッセージ	生化学は検体検査の中心となっている。各領域における臨床検査の理論と方法について、英語文献から読解できるように学習してほしい。							